No.49　　1991年9月1日

アルパック ニュースレター

地域計画・建築研究所

中立売通コミュニティ道路披露パレード（本文中に関連記事があります）

アルパック　ニュースレター　もくじ

特集「京都から見た京都」

- 京のまちづくり……2
- 上京区「中立学区」のまちづくり……4
- 京町家どうなる？どうする？……5
- ポスト学研都市の構想……7
- 宮津市・生気を取り戻した天橋立……8
- うまいもの通信⑧……10
- 「リゾート悪者」論の中で……12
- 花の文化園のバラ園が開園しました……12
- 「大学と地域」シンポジウム……13
- 新刊旧刊書評紹介「京都から京都へ」……15
- まちかど……16

NO.49

京のまちづくり

三輪　泰司

ＪＲ京都駅改築の国際的コンペは、日本中の話題を呼びました。６月１２日から京都府文化博物館で催された作品展示会は、一週間に１万２千人も訪れました。仙台、福岡からも見えていました。家族連れの市民が目立ったのも驚きでした。京都駅は、市民に親しまれていることもあるでしょうが、ただ駅ビルが新しくなることへの興味だけでなく、京都の都市景観や、都市を形づくっている建築のデザインへの関心が高まっている現れだと思います。美意識が“まちづくり”の起爆になるのも、まさに京都ならではでしょう。

京都は本当に美しいか

本年１月、田辺朋之市長は「伝統と創造の調和したまちづくり推進のための土地利用についての試案」－田辺試案を発表し、６月３日「京都市土地利用及び景観対策についてのまちづくり審議会」が発足しました。

田辺試案は、市域を３つの地域に区分して、三方の山地の保全、都心部での積極的な再生、南部での創造と方向づけをしています。

京都の景観を特徴づけているのは、東･北･西の山と鴨川などの川、歴史的な寺・社などの名勝、市内に残る町並み、それにつけ加えるなら、四季折々のうつろいでしょう。

ところが今、京都はこれらの総てが壊れ、汚くなっていると、全国・世界の人々から危惧の声が挙がっています。テレビのルポルタージュで全国にも知れわたった岩倉五山の一つ、一条山のモヒカン刈り。市内はここ数年の異常な地価高騰に乗って、町屋が次々と消え、都心に空地が拡がっています。ＪＲ京都駅と京都ホテルの建替計画は、高層化に拍車

をかけると、猛烈な反対運動が起こりました。

ＪＲ京都駅改築には、基本構想立案から国際的設計コンペのプロフェッショナル・アドバイザーを勤めた立場上、エクスキューズを言っているように取られるのではと、ためらっていましたが、再生・創造をすべき筈の市内の中小建築物や看板の方が、実は京都の都市景観を甚だしく壊しているという現実も言うべきです。京都の市街地は、本当は応仁の乱以来、度々の大火で更新してきましたが、戦災による大破壊を免れ、いま人為的破壊を経験しているのだという現実を直視し、その上に未来へのグランドデザインを創る時です。

現実を直視する眼

「京都」といえば京都市域のことになっていますが、山城盆地北端の市域も、周辺部も限界に近づいています。もっと南へ広く眼を移すことです。そこで「京都」の文化的価値を高める方策が世界的にも期待されるのです。

ＪＲ京都駅改築事業に先立って、1988年８月から「整備調査研究会」をもって、東海道本線の高架化、周辺交通から景観対策まで広範な研究が行われました。これを受けてコンペ審査のために「景観アセスメント」を試みました。何処から見えるか、スカイラインはどう見えるか、といったポリシーを明確にし、

視覚の特性に従って調査しました。パリ市で採っている手法も参考にしました。

建設省でも大規模施設の建設に関して、対処すべき方策を検討していると聞いていますが、京都では都市景観の創造的発展のために景観アセスメントの手法を開発・整備し、義務付けることを考えるべきではないかと思います。それとともに、全市域の模型を作って、都市更新を観察し続けることも必要でしょう。

全く別の話ですが、我々の環境計画部門で、営々とゴミの分別調査をしています。それは京都市の清掃局から10年以上に渡って委託を受けてきたのが原点です。いまそれは、ゴミの減量から再利用計画へと発展しています。都市づくりにも分別調査や定点観測のような努力が大きな意味をもってくるでしょう。

みんなで祝える建都1200年

市民が何時でも全市の模型を見られることや、景観アセスメントの一環として、建築予定地に完成透視図を掲げるなど、誰でも判る方法も提案したいと思います。

ＪＲ京都駅の国際コンペは、審査に先立って、平安建都1200年協会の理事・評議員約135人とマスコミに公開しました。情報公開はまちづくりに重要な問題ですが市民に判りやすい方法を試み、創りだすことだと思います。

いま、京都市内で、建築協定が31地区になりました。準備中のも沢山あります。我々の京都事務所のある四条通りでも検討されています。市民参加とは、市民が自主的に計画の目標を立て、合意づくりをして行くことです。

これも突然別の話しですが、京都市は違反建築の件数で指定都市の中で第一位という不名誉な状況です。その原因は、京都は規制が厳しいということもあるでしょうが、市民の通報がものすごく多いのです。そもそも違反建築指導は、通報があって行うものです。ここにも市民意識の高さを見ることができます。

コンサルタント派遣でお手伝いしてきました中立（ちゅうりつ）住民福祉協議会-中立学区-では、今年の３月、中立通りコミュニティ道路の完成を祝って、パレードをしました。平安建都1200年は、このような京都で言う“内祝”と“お裾分け”が無数に行われることでしょう。

市長の「試案」と健康都市構想の中間報告も発表されました。町づくり支援制度も始まりました。市民への方向付けと後押しの体制は整いはじめたわけです。

京都ルネッサンス

まちづくりで最も大事なことは“仕掛け”て行動することです。ＪＲ京都駅は少なくとも30年先を見越したものになります。都市は常に更新し、しかも不均等に変わります。

そこには懸命に仕掛ける人がいます。

関西文化学術研究都市の黎明期に、山城青年会議所が主催したシンポジウムが、もし無かったら、今日のような状況にはなっていなかったでしょう。青年会議所や経済同友会のような、いわばニュートラルで、自主的な団体が、まちづくりに果たす役割は大事です。３月30日に、京都デザイン関連団体協議会が「ザ・ステーション」と題して、第11回京都デザイン会議を行いました。プロフェッション団体が、市民に公開して、コーディネーターの役割を担うことも大事です。

今、この協議会の議長を仰せつかっています。京都を安全・快適で美しい健康都市にして行くために、建築家やデザイナーなどが、才能を発揮できる条件を整えることが、次の課題です。後世に残る優れたデザインとその運動こそが「活性化」です。京都のルネッサンスへ、光が見えはじめてきました。25周年と京都事務所移転を期に一層頑張ります。

（代表取締役会長　みわ　ひろし）

上京区「中立（ちゅうりつ）学区」のまちづくり

松本　明

御所の西、中立学区

京都の旧市街地では、江戸期の町組の伝統を受け継ぎつつ明治初期に確立された「元学区」が、今日でもコミュニティの単位として大きな役割を果たしています。上京、中京、下京、東山の都心４区には74の元学区があり、人口は平均4,150人です。

その一つ、上京区中立学区は、御所の西に接し、古い歴史や落ち着いた環境を持つ地域です。学区の自治組織、中立住民福祉協議会（住協）は、町内会や各種団体が結びつく核であると同時に、独自のまちづくりの問題にも取り組んでいます。

「中立方式」の確立と「まちづくり懇談会」

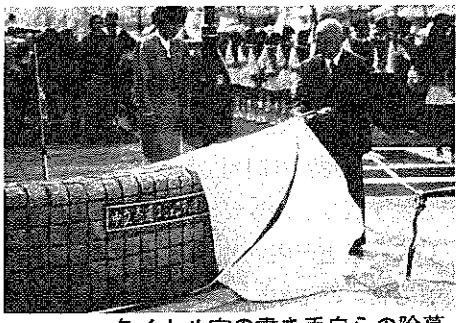
昭和47年、学区で初めてマンション建設の話が持ち上がりました。周辺環境への配慮や工事中の安全等についての住民の強い要望に基づき、住協と関係町内は業者と十分に協議し、詳細な協定書を取り交わしました。学区ぐるみで取り組むこの方法は、その後も多くの知恵が重ねられ、中立方式と呼ばれる学区共通のルールとして定着してきました。

一方、近年の地価高騰と建設ブームは、中立学区にも及んでおり、人口減少ともあいまって、「学区はこの先どうなるのだろう」というのが多くの住民の問題意識となっています。「変わりゆく中立学区、みんなで考えよう住みよいまちづくり」をスローガンとして、まちづくり懇談会が設置されたのは昭和60年のことです。（昭和62年には「まちづくり専門委員会」に改称）。住協や各種団体のメンバー等が参加し、毎回、学区内のその時々の問題の情報交流や学習を重ねています。私どもも、この時以降京都市住宅局の「ホープ計画推進助成制度」により、行政と一緒にまちづくりのお手伝いをしています。

アンケートから実現したコミュニティ道路

昭和62年、学区民の創意を踏まえたまちづくりをめざして、まちづくりアンケートが実施され、その中で交通安全が切実な問題の一つとして浮き彫りになりました。自由回答にも路上駐車や歩道不足など問題が多数出され、また懇談会でも、肉親が歩道上の車を避けて車道を歩いていた際に事故に遇い、それがもとで亡くなった話などが出されました。

これらが確信となって、交通問題にまず取り組むことが決まりました。学区民自身による交通量調査や、大阪市等のコミュニティ道路見学会、学者による講演会等を行う中で、中立学区の背景と言える中立売（なかだちうり）



タイトル字の書き手自らの除幕

京の町並みにマッチしたデザイン

誇り高き行進者たち

通をコミュニティ道路として整備する案が徐々に具体化していきました。

昭和63年末からは市建設局の参画を得て事業化に着手しました。京都のまちなかでは初の試みであり、デザインの検討や沿道住民との協議等が重ねられました。途中、堀川に架かる橋のアスファルト下から明治初期の石畳が「発掘」され、それを活かしたデザインに修正するといったことを経て、今年の3月にようやく完成し、成安女子高校のブラスバンドを先頭に盛大な開通パレードも実施されました（表紙）。

「まちづくり憲章」の実現に向けて

息の長いまちづくりの取り組みは今後も続きます。若者もお年寄りも安心して住めるすまい・まちづくり、小規模校問題、建築と環境、中立売通の自主的な清掃や沿道の町並み形成など、課題は山積みです。

学区では、専門委員会で議論し組み立てた「まちづくり憲章（試案）」の具体化に向けて、各町内でのきめ細かなまちの課題を堀り起こし、住民自治に基づくまちづくりを強める取り組みを進めようとしています。

（京都事務所　まつもと　あきら）

京町家どうなる？どうする？

石本　幸良

昨年、京都で行われた第13回全国町並みゼミの都心部会のメンバーを中心として、ゼミ以後、「チェントロストリコ研究会」の名称で、都心部における町家の問題を研究しております。この研究会での取組として、京都大学建築学科の三村研究室を中心として、都心部の町家の実態調査と居住者の意識調査が行われましたので、その概要を報告させて頂きます。

調査の範囲は東西は今出川通～五条通、南北は河原町通～千本通の間の都心部で、通り、路地、厨子まで全数調査を行いました。

町家については、近世までに確立された中2階の町屋と、明治期に改善された本2階の町家で、京格子、大戸、一文字瓦の庇屋根、むしこ窓の京町家の伝統的な様式を継承している町家を中心に7つの類型化を行いました。その結果、本格町屋が 152件、準本格町家が314件確認され、調査対象の都心部で保存の候補となり得る町家が466件確認されました。その分布状況は西陣織製造業が集積する西陣地区と、繊維卸小売問屋や繊維以外の伝統産業が集積する2つのブロックに大きく分かれ、京町家と伝統産業や老舗との集積が対応していることがわかります。

また、町家の集積状況をとらえるため、「向こう五軒両々隣」、すなわち本格、準本格町家を基準に正面5軒、左右両々隣の4軒を含む10軒を一つの群として、「界隈」と名付け、町家の集積状況を調査しました。本格町家は単独での存在でも、周囲のビル化の中で充分に存在感を発揮しており、町並みを演出するﾗﾝﾄﾞﾏｰｸとしての役割を演じています。また、改造はされていても、「界隈」として

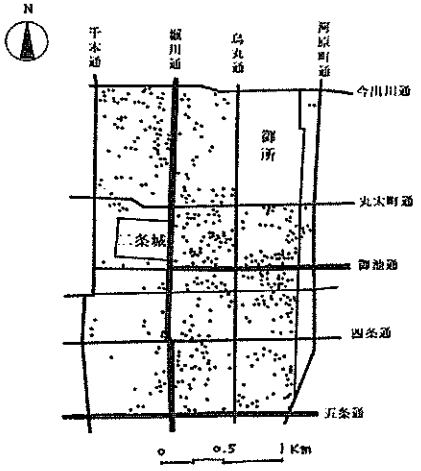
集積した場合、通りにリズムを与え、ゆるやかな アイデンティティを作り出しています。連担する界隈の中で面的あるいは通りとしての良好さを残す33界隈が確認されています。

居住者へのアンケート調査は本格町屋を中心に737票を配付して、519票の回収が得られました。回答者の年齢は高齢者が4割を越え、借家や無職などの条件を考慮すると、今後も町家を維持する客観的条件をもちえていない世帯が多いことがわかります。居住者の町家を継承する意識は高く、また、「前の世代から何となく受け継いだ」との回答が半数近くいたにもかかわらず、町家の様式やスタイルにこだわる人がそうでない人よりも5割程度多く、基本的には町家にこだわる層が多いことがわかります。町家にこだわる層は専用住宅よりも併用住宅や店舗営業者に多く、町家が商売上のブランドの役割を演じていることと関連していると思われます。

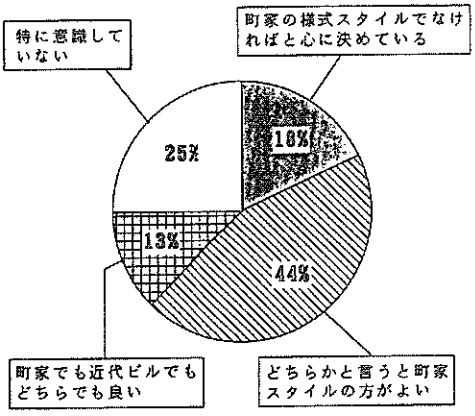
今回の調査は町家の実態調査と居住者の意識調査が基本に行われましたが、今後、研究会では京都のまちの中での京町家の役割を明確にして、その保全、再生の方法について検討していく予定になっています。

（京都事務所　いしもと　ゆきよし）

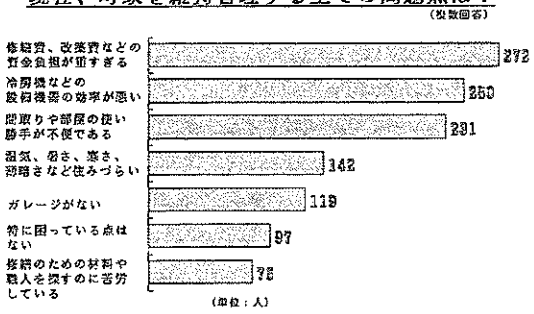
本格町家の分布



継承する意識



現在、町家を維持管理する上での問題点は？



杉本家（京都市下京区綾小路通）
京都市指定有形文化財

ポスト学研都市の構想

山口　繁雄

ポスト学研都市

京都府では、木津川左岸地域の関西文化学術研究都市の建設が軌道に乗り、今後は木津川右岸地域の開発整備が重要な課題になっています。

この地域は、京都と奈良を結ぶ文化回廊に位置しており、関西文化学術研究都市と同様にその開発のあり方が問われてきたところです。

現在、第二名神自動車道の整備計画に対応して、国により京滋地域の開発整備調査が進められていますが、当地域の各町においては、その方向づけを受けて、開発整備計画を具体的に推進しようとしています。

しかし、当地域は、関西文化学術研究都市に隣接しており、既に開発圧力には高いものがあります。そのため、京都府下における政策的な開発整備地域は、中北部地域に移ってきています。丹後リゾート開発構想は、ポスト学研都市の目玉事業として位置づけられるものです。

丹後リゾート開発構想

丹後リゾート開発構想は、京都北部地域の活性化を促進する目玉事業として構想されたもので、宮津市と舞鶴市を拠点都市として、日本海の美しい自然環境を生かしたリゾート地域を形成しようとするものです。

現在、調査企画を行う第三セクターによって、事業化計画の検討が進められており、今後、事業会社を設立して事業計画を作成する運びとなっています。

社会経済情勢の変化により、事業をうまく展開していくことに関しては必ずしも楽観は許されないと思われますが、北部地域活性化の目玉事業だけに、地元の期待には大きなものがあります。

浮上する京都中部地域

北部開発計画に関連して、現在、京都市から宮津市に向けて、京都縦貫自動車道の建設が進められています。既に京都市と亀岡市の千代川地区までは供用開始され、平成4年頃までには丹波町の須知地区までの整備が予定されています。

この京都縦貫自動車道沿線の京都府中部地域は、京都市や大阪府に隣接しているにもかかわらず、これまでは交通条件や地形条件の悪さ等から、余り注目されてきませんでしたが、ここにきて京阪神大都市地域に隣接する殆ど唯一の大規模開発可能地域として、注目を集めつつあります。その最大の魅力は、豊かな自然環境が残されていること、地価が相対的に安価なこと等です。

大阪湾ベイエリアが、近畿圏の国際文化経済圏の中枢として、脚光を浴びていますが、京阪神大都市地域に隣接する内陸地域にあって、唯一の大規模開発可能地域として、この京都中部地域の開発整備動向は、今後、大いに注目するに値すると思います。

（京都事務所　やまぐち　しげお）

～泰さんのあんな京都こんな京都⑤～

宮津市・生気を取り戻した天橋立

山田　泰造

日本三景の一つ天橋立は戦後台風や豪雪で存立すら危ぶまれる状態に追い込まれた事もあり、関係者は国民の大切な宝物を守り、天橋立の象徴「海浜の白砂」「砂洲の松林」を保全するため黙々と努力を重ねてまいりました。最近漸く優雅で繊細な橋立が生気を取り戻してきています。

ジェーン台風による白砂の流出

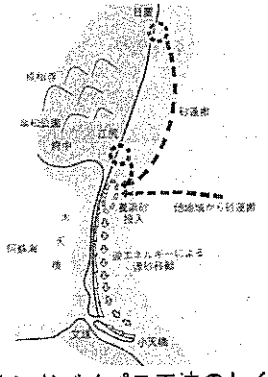
昭和25年9月3日ジェーン台風が丹後半島の東側を通過したため天橋立は甚大な被害を受け、砂洲全体が荒廃し、特に海浜部は白砂の流失甚しく、昔日の面影は見る影もなくなり、直ちに白砂回復の対策が展開されました。

(1) S25～45…… まず白砂の流失防止に最も効果のある工法が検討され、S26から長さ15m、間隔約50mの突堤を汀線付近に設置（災害復旧工事）、S44まで続行。この工事は白砂の流出の緩和には役立ったものの、期待した程の効果を発揮できなかった。

特記事項として昭和天皇は本台風被害に対し直ちに御見舞金を御下付、S26年11月13～14日天橋立に御一泊。御製を賜る。

(2) S45～54…… 長さ30～50m、間隔200mの突堤を新設。しかし此の工事も侵食防止用で、浜を太らせ白砂を回復させるものではなかった。この時期河川からの土砂流出量は減少し、又沿岸構造物が建設され、漂砂量は益々乏しくなり、場所によっては松林の基部まで波に洗われる箇所も出現、橋立の存立に危惧の念が持たれた。

(3) S55～61…… 抜本策としての養浜工法を検討するため総合的な調査を実施（運輸省・京都府）。



サンドバイパス工法のしくみ

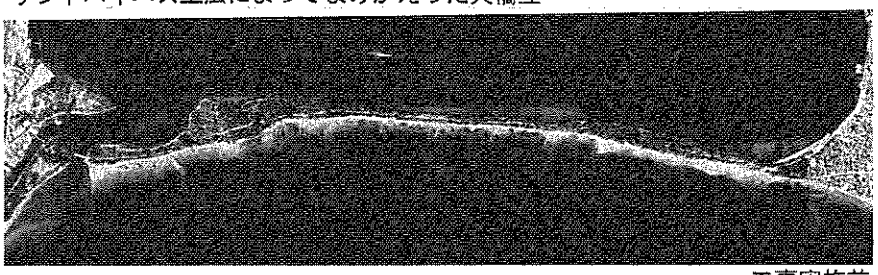
橋立海岸の状況からサンドバイパス工法が最適と決定。この工法は人工構造物の上手側に推積した沿岸漂浜を下手側海岸に人工的に移動させ、海浜の平衡状態を維持しようとするもので、自然現象の代替方式として考えられた工法である。調査結果を3点に要約すれば、砂の投入位置は橋立の根元、投入量4,000t／年投入時期12～3月。7年に及ぶ実験の結果、S61遂に白砂の浜がイメージ通りの形状に回復していることが確認された。

(4) S62～ …… 橋立での成果が確認され、我が国最初の本格的な養浜事業がスタート。日本では海岸を永久に保全するための護岸は従来から防波堤、テトラポット等の硬構造物に頼っていた。しかし最近海岸の砂浜の景観や快適性が重視されるようになり、海岸を守るために砂浜という柔構造物によって行うことが場所によって可能であることを、今回の実験が証明した。橋立の養浜事業の画期的意義を評価した土木学会に表彰されている。

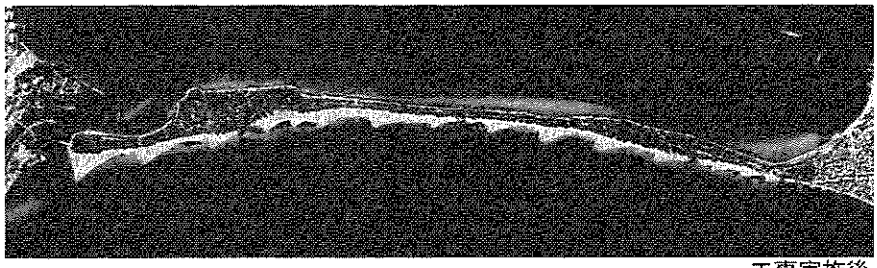
S45年2月の豪雪による松林の衰退

S38の記録的な豪雪には天橋立は風向の関係から幸い被害を受けませんでしたが、S45年2月の豪雪で松林は倒伏・折傷・衰弱等の痛手

サンドバイパス工法によってよみがえった天橋立



工事実施前



工事実施後

を受け、松林全体の消滅が危惧される程でした。直ちに「砂州の松林」を回復するための対策が実施されました。

(1) S45～48…緊急対策… まず松林を生き残らせるための対策として損傷甚しい地区から順次客土を行う。長年の風雨により表土が流出しており、必要な土盤が1m近く低いので、松の生育の基礎作りが必要とされた。

(2) S49～54…基本対策… 土壌の貧栄養状態を改善するための客土・施肥の充実。有機物質を土壌に還元し地力の涵養に努める。

(3) S55～60…長期対策… 植物の育つ条件（気象・土壌・生育環境）を調査、生育条件を改善する。なお樹勢や松の緑の回復が漸く明瞭になった為、後継樹の育成や世代交替の準備作業に着手する事が可能となる。

(4) S60…府立大学の総合調査… 興味を引かれた指摘事項3点は(ア)土壌有機物質が極端に貧弱。(イ)松以外の常緑樹タブの木を放置すれば、いずれ松は消滅する。(ウ)松の障害の早期発見に役立つ科学機器の購入。

(5) S61～ …長期計画の継続… 京都府立大学の指摘事項は着実に実行されつつある。

天橋立を守り育てる為ひたすら努力してきた関係者の長年の労苦は、漸く報われる時が来ました。そこで本事業に永年携わってきた2人の方の談話を紹介します。

○山田文雄氏（前京都府港湾課長）…自然に手を加えると必ず何等かの反応があります。橋立が変形や消滅することは絶対にゆるされません。慎重の上にも慎重に、時間をかけ、変化を見極めながら事業をすすめてきました。

○木幡欣一氏（京都府立植物園長）…植物の管理は30年をオーダーとして考えるべきです。S45年2月の豪雪を契機とした長期の対策は貴重な経験でした。今後は橋立全体の松林の自然の構成美と、1本1本の松の個性美を尊重して、夫々の特色が発揮できるような管理をしていくことが必要であると考えます。

［資料提供：京都府土木建築部港湾課］

（京都事務所　やまだ　たいぞう）

うまいもの通信㊐

曽我の兄弟、京の祇園で日・月・星に対面す

～「寿はま」のいわれ～

尾澤　律子

祇園祭と「寿はま」

いきなり、夢の遊民社のようなお題目をつけてしまったが、これは祇園祭りの時のお菓子の話。？年前の宵山の日、私は四条柳馬場を下がった所にある産院で、生まれた。当時は産院から祇園囃子が微かに聞こえていたらしい。その新生児体験の影響かわからないが、今だに夏になり、祇園囃子を聞くと、命の音か母の音を聞いているかのごとく、涙さえ浮かべてしまう、みっともない自分がいることを毎年のように確認している。そんな、おセンチな祇園祭りの時に、今しか食べられないからといって、毎年習慣のように買ってしまうお菓子がある。祇園祭りの時しか手に入らないお菓子には行者の衣にみたてた皮に味噌餡と牛肥が入った行者餅や稚児社参の時、授かる稚児餅など幾つかあるが、その中の一つに、寿はまがある。これは水飴、米粉、豆粉、砂糖を練り合わせて、蒸し、棒状に伸ばして上へ2本、下へ1本の篠竹をあてがって写真のように押さえたもので、味の方も非常に素朴なものだ。味は素朴だが、何故、名前が寿はま？となると、双六のように連鎖的に話が続く。まず、洲浜。「島のいとおかしき洲浜に千鳥のゆきちがひたる」などというように、河口付近で洲が海に突き出た浜辺を言う。このお菓子の寿はまは切り口がこの洲浜の形に似ているので、この名があるらしい。

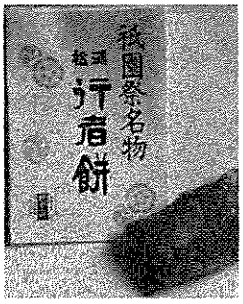
「寿はま」と「洲浜」

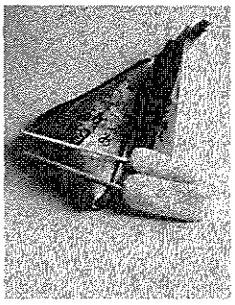
洲浜はその独特の形のために、その後、形状的名称としての地位を確立していくことになる。まず、めでたい祝宴の飾り物をのせる台の輪郭に取り入れられる。洲浜の美しい水際の文様を取り入れ、曲線模様の形をした台に脚をつけ、台上には高砂の尉姥や松樹、鶴亀など祝儀物を飾って、呈物、進物に添えるのが正式だった。この台は島だから、この台のことを島台ともいう。

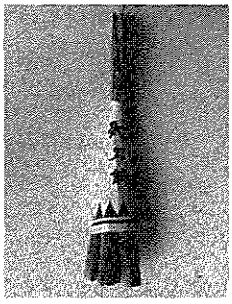
この島台は歌舞伎の寿曽我の対面で、曽我の五郎、十郎が花道の出に片手にさげているものだ。蛇足だが、この寿曽我の対面は私の好きな芝居で、ストーリーがただ単に兄弟が父のかたきに対面するというだけのもの。どうしてそうなったのかなど細かい筋書きを問うては野暮というもので、誰にも判らない。敵打ちとは言え、寿と付いているのはお正月に一座の顔を揃えて、役者の美しさを見せるショウだからである。だから、筋書きなどどうでもいいのである。観客はお正月のセレモニーの厳粛な気分を味わうとともに役者の美しさを見定めに来る。役者の美しさは芸が創り上げる。その生きる美しさ、定石を踏んだストーリー、季節ものの錦絵、華麗なる美しさに酔うセレモニーとなると、山鉾がその優美な姿を動かす祇園祭りに共通するものがあるように思われる。長々と書いてきたが、この洲浜の形を模したものが、お菓子の寿はまである。

放下鉾（ほうげ）と洲浜

さて、双六も佳境に入り、この洲浜と祇園祭りの関係だが、祇園祭りの放下鉾の鉾頭の形がこれまた、洲浜の形に似ているのである。そのため、京都人は放下鉾とは余り言わず、専らすはま鉾と言う。放下鉾とすはま鉾が一







食べられないちまき

致しないぐらい、すはま鉾と言う方が浸透している。こうして、洲浜は形状的名称としての地位を揺らぎなくしていくのだが、残念ながら、この放下鉾の鉾頭の形は海辺の干潟、洲浜の形から来ているのではない。鉾頭の3つの円の合体した物は日・月・星三光を象徴し、2本の棒は光芒であるというのが主説のようだ。洲浜の形のめでたさをとって、2本の棒の方は鉾頭の構造上、バランスを考慮して必要だったという説や諸説があるが、もう一つの説として、放下鉾の意味からきているものもある。もともと、放下というのは、禅でいう「ほうげ」で、諸縁を捨てて、無心の境となり、執着しないことを言う。後に、一切の妄念を去って、技芸を錬磨する意になったが、この鉾が創建された当時、放下師や放下僧という街頭の人気者がいて、輪鼓（鼓形の独楽を紐で回転させて、投げ上げ、又紐で受けるもの）、品玉（奇術）、曲手鞠、こきりこ（4つの竹のように2本の竹を打ち合わせて音をたてる簡単な楽器）、幻戯など、習練を必要とした雑芸を社寺境内などで演じて、米銭を乞い、或いは仏家が法を説くための人寄せの手段に用いた。放下鉾にはこの放下僧が御神体として祀られているが、放下僧と鉾のいわれはない。創建当時、人気者であった放下僧をヒントに趣向され、一意専心して、悪疫退散を祇園の神に祈願するという意味で命名されたのではないかというらしい。祇園祭りの山鉾は山には人形やお社、観音等の独特のテーマがあるが、鉾には名称に相当するテーマがはっきりしていない。放下鉾もその一つ。さて、そこから放下鉾の鉾頭はこの放下僧の扱った鞠とこきりこをモチーフにしているのではないかというのも一説。

時代の流れの中で、形が意図しないメッセージを持ち出す。このようにすはまの紋様が様々な意味を表すようになり、「すはま」と聞くと人は色々な意味を思う。つまり、形が多岐的な意味を持つと同時にその形を表す音までも多岐的な意味を持つようになる。「言語は概念を表す記号の体系である」と言ったソシュールの言うように意味と音の繋がりが恣意的だから、そして、さらに形と意味が恣意的だから、このように時代を経た形が伝えるメッセージは面白いのかもしれないと思う。

誰ですか？放下鉾の鉾頭を団子の串ざしと言うのは。

（京都事務所　おざわ　りつこ）

「リゾート悪者」論の中で

伊坂　善明

「バブル」がはじけて

ゴルフ場開発問題や大手金融・商社等の不正事件など、リゾート開発には「暗い」イメージのつきまとう今日このごろです。

昭和62年にリゾート法が施行されてからのリゾートブームに、当時異常な雰囲気を感じた人も多かったはずです。国土面積の20%ものリゾート開発が進むなど、尋常の感覚ではとうてい考えられないことです。案の定、いくつかの開発構想の挫折ないしは断念が報道されていますが、これはむしろ正常化の方向と見るべきでしょう。

需要と供給の「ミスマッチ」

ブームの頃、リゾート開発の問題は、供給者の一方的な論理によって開発されることから生じる需要と供給のミスマッチであることが指摘されていました。

最近は、行き過ぎた「悪者論」によって逆のミスマッチが生じないか心配です。国民の豊かな余暇生活に対する願望は、ますますつのるばかり。ブームにおどらされない需要層は、堅実に増えているのが実態でしょう。

つまり、こうした需要層の心をつかむ優良なリゾート開発が求められているのではないでしょうか。

丹後リゾートにとりくんで

私は今、京都府北部の丹後リゾート開発にとりくんでいます。昨年設立された第三セクター「丹後リゾート総合企画㈱」のお手伝いをさせていただいています。この計画は、京都府の大規模公園事業と第三セクター事業を一体として進めるといったユニークな事業です。現在、自然の条件を生かすとともに地域文化の向上に役立つようなコンセプトと計画づくりに取り組んでいるところです。

都会に近くて、週末利用も可能な立地条件を生かして、堅実な需要層の心をつかむ優良なリゾート開発をめざしていきたいと考えています。

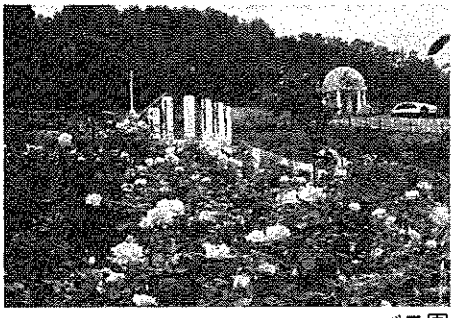
（京都事務所　いさか　よしあき）

花の文化園のバラ園が開園しました

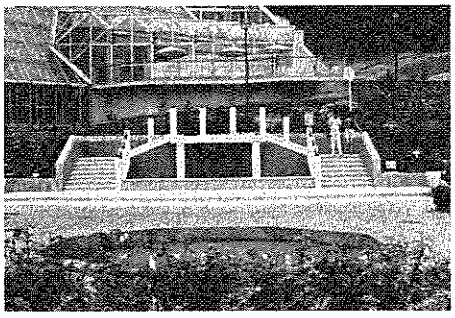
大河内　雅司

花の文化園は、植物園とはひと味違う「花と人との関わりを理解する場」として、大阪府河内長野市に90年9月にオープンしました。今回二期工事のバラ園等が開園され、この施設は全面オープンを迎えたことになります。

二期工事は、バラ園、ロックガーデン（コニファー園）、自由広場、野外休憩舎からなっています。なかでも庭園の魅力づくりの中心となっているのは、バラ園とロックガーデンです。



バラ園



バラ園にアプローチする階段

バラ園は、西洋庭園のイメージをもとにした幾何学的なパターンを用いています。園内をゆっくりと散策しながら、様々な品種のバラを鑑賞することが可能です。バラ園には、花の回廊から階段を下りてアプローチします。階段の中央には小さな滝が流れ落ちており、滝を見ながらバラ園に近づいて行きます。その先には、バラ園の中心に池が設けられており、鑑賞者を導くとともに、空間に潤いを加えています。

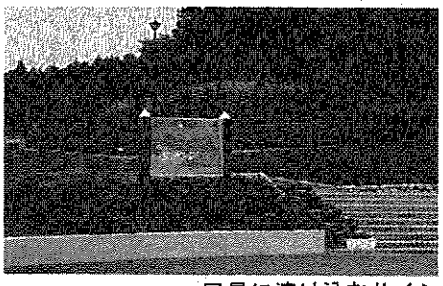
ロックガーデンは、岩と野草園で構成される自然的な庭園です。岩の間に野草やコニファーを点在させており、ダイナミックな景観が形成されています。

花の回廊からの軸線上には、アイストップとしてイギリス庭園風の休憩舎を設けており、景観を引き締まったものにしています。

園全体のサインとして、透明な素材や、鏡面の仕上げを用いており、風景に溶け込み風景を映し込むようにデザインされています。

園を訪れた人々にきれいな花を活かすヒントを持ちかえってもらえるように、施設運営が行われています。これからも魅力的な企画を打ち出し、四季折々の花の魅力の演出によって来訪者のニーズに応えていくことが期待されています。

ロックガーデンと屋外休憩舎


風景に溶け込むサイン

（大阪事務所　おおこうち　まさし）

「大学と地域」シンポジウム

山田　克雄

大学への期待

最近、地域振興を考える場合、大学の役割が注目されてきています。その要因として、若者が集まることや、より高い学習機会の提供などがあげられますが、従来の工場誘致の代わりに大学誘致を進めている例も多くみられます。また、産学交流による新しい産業の創出や技術移転への期待もあります。

大学と地域との関係

大学への期待が高まりつつある反面、大学が地域に存在することの効果は、あまり明確でなく、極端な場合、文化度の向上といったことでかたづけられます。大学紛争の時は、地域にとって大学は必ずしもありがたい施設でなく、大学進出にあたって反対運動さえ起こりました。ヨーロッパ中世では、都市と大学との紛争は通常であり、独立する存在でさえあったとされています。

京都の大学

京都は大学のまちであり、多くの大学が存在し、学生を集めています。全国的にみても数では東京に次ぎ、密度では最も高い地域であるといえます。大学の立地を制限している工場等制限法により、近年の京都の大学流出が問題とされていますが、最近は学生数も横這いから、新大学・学部が設置され、幾分増加している現状です。

「大学と地域」シンポジウム

このような地域における大学への期待の高まりの中、今年５月に立命館大学人文科学研究所・京都市共催による「大学と地域」シンポジウムが行われ、出席する機会を得ることができました。大学における知的集積や教育研究活動を活用し、地域に貢献することを目標に、大学と地域の協力のあり方を探ることを目的とし、海外研究者を含めた国際シンポジウムとして開かれました。大衆化時代での将来の大学構想を踏まえ、地域と大学との協力について、新しい仕組みや制度を含めた多面的な意見が交換されました。このシンポジウムは、今年の成果をもとにさらに研究を進め、来年５月に再び開催される予定です。

（京都事務所　やまだ　かつお）

アルパック２５周年記念事業のお知らせ

アルパックは、皆様の御支援のお陰で、今年創業２５周年を迎えます。その感謝の気持ちを込めて、今秋、記念パーティを予定しています。

現在のところ、１１月初旬に東本願寺の別邸として有名な「枳殻邸」で行う予定で準備を進めています。

編集局より

○今月号は、京都事務所の移転にあわせて、「京都」を特集テーマとして組みました。ＪＲ京都駅改築コンペ、地価高騰と町並みの破壊など広く京都が世間に注目を集めているときだけに、編集には少々手こずりました。読者の皆様のご意見、ご批判がいただけましたら幸いです。

○次号（１１月号）は第５０号となります。８年前に発行して以来、なんとか２カ月おきに続けることができました。そんなことで、次号は５０号記念号として準備を進めています。皆様からのお便りをお待ちしています。

○その他、今年は、アルパック創立２５周年事業、京都事務所の移転などいろいろ盛りだくさんの年ですが、所員一同ガンバッております。よろしくご支援のほど、お願い申し上げます。

（い）

京都事務所移動のお知らせ

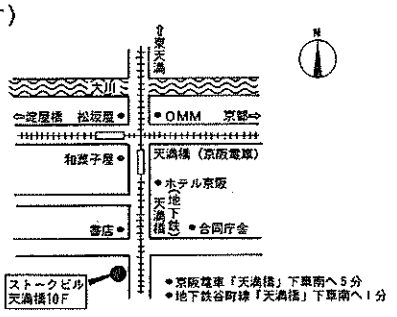
京都事務所は、数年前から少し手狭になっておりましたが、今秋、同じビルの６階に移動致します。多少、広いスペースが確保できますので、会議室も充実して、皆様にもご利用していただこうと考えています。

㈱アルパック・インターナショナル事務所移転のお知らせ

お陰さまで、この８月末で、満２年を迎えます。仕事の方も徐々に拡っており、皆様方のご指導の賜物と感謝しております。皆様にも自由にご利用していただくために会議室も少々広く用意いたしました。どうぞお気軽にお立ち寄りください。

新住所

〒540大阪市中央区谷町1丁目5-7
ストークビル天満橋10Ｆ
☎　(06)943-7016
FAX (06)943-7026
（なお、電話とファックス番号は従来どおりです）



新刊旧刊書評紹介

監修　北条　誠
制作　都市居住文化研究所

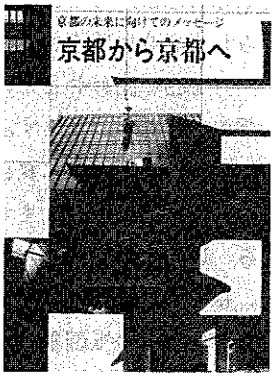
京都から京都へ

紹介　高橋　はるみ

京都駅ビル改築問題、西大路通りへの高速道路乗り入れ計画、乱開発による都心部の人口激減等々。今、京都の町は全国のみならず、広く海外にまで多くの問題を投げかけ、「歴史都市・京都」のあり方が内外で論じられています。

その中で、京都を想う人々が集い、京都が直面している様々な問題を正面から受けとめ、21世紀への町づくりについて、共に考え語り合ったのが、ここに紹介する「京都から京都へ」です。座談会形式をとっている為、難しい論文や報告書を読むのと違い、心地よいアップテンポでどんどん読み進んでいけるリズムを持っています。ゲストも歴史学者、お花・茶道具の家元、宗教家、地元経済人、京都の文化人等、バラエティに富んでおり、各界から見た京都（のまち）観も聞ける仕組みになっています。

京都生まれ京都育ちの私ですが、ウンウンとうなずいたり、こんな見方（考え方）もあったのかと驚いたり、数々のメッセージに一喜一憂してしまいます。又、「当たっているだけにきついなあ」と思うことをズバズバ言ってのける口調に、共感と反省をまじえつつ読みふけっていきます。一例を挙げると、Message5で福島氏（東福寺専門道場の館長）の談として、以下のようなものがあります。『(京都には)たくさんご本山があります。・・・・・京都の人は“いつ行ってもお話は聴けるんや”と思っているうちに、精神がボケて老化現象を起こしているようですね。』（精神文化を培うための歴史とロケーションを持っているにもかかわらず、市民の意識はなかなかそこまできてないという話に対する答弁より抜粋）



聞き手の方も、ダイアン・ダストン、真鍋宗平、北条誠の三人が三様の想いを時にはゲストを差しおいて多いに語ってくれます。また、あとがきとして、京都の町づくりに向けての私論－京都CI序説－について提案もされています。これからの京都のまちづくりにあたって、旧京都の保存と整備、新規開発等、様々な問題についての未来像。京都の持つ問題性と可能性、そしてそれらを成し遂げていく上で、市民一人一人がどれくらい自分たちの町の歴史を誇り高く自覚しているか、ということを再確認する必要性。

読み終えて思うのは、この人達が本当に、京都の町を愛しているのだということ。京都に住んでいる人もいない人も、そして京都を愛する人にも無関心な人にも、是非一度読んで欲しい。そしてこのまちを見つめて欲しい。そんなメッセージを誰かに届けたくなる一冊です。

（京都事務所　たかはし　はるみ）

まちかど

地蔵盆　-みちで遊んだ夏の日の思い出-

小阪　昌裕

京都の夏の風物詩の一つ

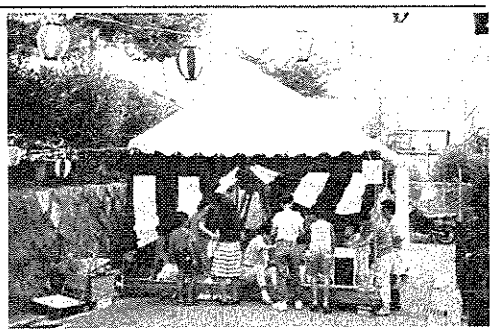
国際化が叫ばれれば叫ばれるほど一方では日本らしさが求められます。京都は、その日本らしさを今に残すまちの一つ。

三方を山に囲われどこにいても山が見え、一種の安心感があります。が、夏は蒸し暑く、冬は底冷え、さすがに夏になるとその山々に締め付けれる思いがします。で、子供のころから、夏は京都脱出という思いがありましたが、京都の暑い夏を過ごす生活の知恵として、梅雨明け前後の祇園祭7月17日、その1ヶ月後の大文字の送り火8月16日、これが2大アクセント。さらに地蔵盆と大日会が、各町内の手づくり行事で曜日の関係から日程が動く場合もあるようですが、8月23・24日と26・27日の日程で続けられ、夏休み最後のイベントとして京都の夏の風物詩にもなっています。

辻のお地蔵さん

京都の都心部の道には名前がついていますが、碁盤の目だからこそ逆に迷わないように名前が付けられているのでしょうか。

その道を今や車に明け渡してしまったかの



ようですが、車がみちを人に明け渡す日もあります。祇園祭の歩行者天国とみちで安心して遊べる地蔵盆の日。その地蔵盆は、お地蔵さんの近くのみちや駐車場等にゴザをしいて、券さえあれば、おやつがもらえ金魚すくいや福引きもでき、夜は映写会が催される等、2日中、昼も夜もみちみちで遊びその思い出は絵日記には必ずといって出てきたものです。

季節ごとの風物詩があり、みちばたでも安心して遊べるまち、これが私のふるさとのまちの魅力なのかもしれません。

（大阪事務所　こさか　まさひろ）

アルパック　㈱地域計画・建築研究所

ARCHITECTS. REGIONAL PLANNERS & ASSOCIATES. KYOTO

本社 京都事務所	〒600	京都市下京区四条通り高倉西入ル立売西町82 （大和銀行京都ビル8階）	TEL (075)221－5132㈹ FAX (075)256－1764
大阪事務所	〒540	大阪市中央区城見1－4－70 （住友生命OBPプラザビル15階）	TEL (06) 942－5732㈹ FAX (06) 941－7478
名古屋事務所	〒460	名古屋市中区丸の内3丁目18番30号 （ツボウチビル2階）	TEL (052)962－1224㈹ FAX (052)962－1225
東京事務所	〒160	東京都新宿区新宿2－5－16 （霞ビル401号）	TEL (03)3226－9130㈹ FAX (03)3226－9560
九州地域計画研究所	〒810	福岡市中央区天神1丁目15番1号 （日之出ビル6階）	TEL (092)731－7671㈹ FAX (092)731－7673
㈱アルパックインターナショナル	〒540	大阪市中央区谷町1丁目5番7号 （ストークビル天満橋10階）	TEL (06) 943－7016 FAX (06) 943－7026
㈱都市居住文化研究所	〒604	京都市中京区東洞院通六角上ル 三文字町225 （朝陽ビル4階）	TEL (075)252－2231 FAX (075)252－4417